

桂スチール 岡山に新工場、10月完成

投資 16億円

小物部材の加工強化

桂スチール(本社〓兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は来月(8月)から、新工場「友延工場」の建設工事を開始、今年10月に完成させ、稼働させる。工場建屋

を新築するとともに、建屋の隣接地にテント付きの製品ヤード(BH、鉄骨用)を整備するもので、投資金額は約16億円(土地代を含む)。新工場ではガセツ

トプレートや建築用の小物部材の加工強化を図るとともに、BHや建築鉄骨など製品置場

BH業者。生産拠点としては岡山第1工場、岡山第2工場、岡山第3工場、岡山第5工場、

玉野工場、姫路工場を有し、建築鉄骨向けの切板を行うとともに、BH・BTの製作、これら製品の1・2次加工、建築鉄骨の製作を手掛けている。

ここ数年、建築鉄骨は堅調に推移する一方で、構造物の高層化や大型化により、BHの需要は着実に拡大。同社のBH製作量も年々、増加しており、直近では年間7万18万トとなっている。こうしたBH製作数量が伸長する一方で、ハイアンションボルトやトラックの不足などが影響し、建て方が延期されるケースが増加。結果、製品の保管期間が長期化し、既存の製品ヤードのスペース

・平屋建て、建屋面積が約7040平方メートル(40メートル×176メートル)。天井クレーンは10基(20メートル×2基、10メートル×2基、4・8メートル×6基)。10月に工場建屋は完成し、完成後、小物の建築部材の新鋭加工設備などを導入する。

具体的にはイタリア製のショットブラスト設備(幅2650センチ×長さ16メートルに対応)を1基、三菱電機製の出力8kWのレーザー切断機1基(板厚〓最大22センチ対応)、コマツ産機製のプラズマ切断機1基

(板厚〓最大50センチ対応)を導入する。これ以外に、BHの補修用として、既存の岡山第2工場からBH用の溶接機2基を移設する。また、新工場と隣接

する形で、製品ヤードを整備する。製品ヤードは面積が約3300平方メートル(20メートル×165メートル)、屋外の門型クレーン6基を設置。また、ヤード内に18メートル×60メートルのテントを2基据え付ける。テントは製品が雨に濡れないようにするとともに、製品の吹き付け塗装ができるようにする。

新工場は8月から着工する。建設概要は工場建屋についてはS造

は目いっぱいとなっていった。また、BHの注文と併せて小物の建築部材の要望もさらに増大。同社ではこれらの課題を解消するには新工場の建設が必要と判断、今年3月、岡山県備前市友延の土地(敷地面積〓約6万1000平方メートル)を購入した。

関連記事2面

製品の加工強化を図るとともに、BHや建築鉄骨など製品置場